

エピソード21

保護者が子どもに弟の世話と留守番を任せて外出します。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校で学級担任をしていた時の
経験を話していただきます。

私が3年生を担当した時のことです。
みちこさんは欠席の多いお子さんでしたが、
登校すれば楽しそうに活動していました。

欠席する日は、朝、お母さんから
「みちこが学校に行きたくないと言っ
ているので」と電話で連絡が来ました。





先生はどのように対応したのですか。

学校に来たくない理由を、みちこさんにそれとなく聞いたり、お母さんに様子を伺ったりしましたが、理由はわかりませんでした。

みちこさんの家は、弟が生まれたばかりで、お母さんは赤ちゃんの世話で大変なのかな、みちこさんはそれが寂しいのかなと思いました。





みちこさんのことで、
気になることがあったのですね。

ある日、みちこさんが帰りがけに「早く帰って
弟の面倒を見なくちゃ」と言ったのです。

私は、詳しく聞きたいと思いましたが、
みちこさんが急いで帰ってしまったので、
その日は何も聞けませんでした。





その後、先生はどうしたのですか。

みちこさんが登校した時「みちこさんは、お家で弟の面倒を見ているの？えらいね。

お母さん、忙しいんだね。どんなお手伝いができるの？」と尋ねてみました。





みちこさんの話の内容は、
どのようなものでしたか。

みちこさんは、お母さんがみちこさんに
留守番と弟の世話を任せて、よく
外出することを話してくれました。

私は驚いて、学年の先生と教頭先生に
すぐ相談しました。





その後のことを教えてください。

みちこさんのお父さんは単身赴任中で、週末しか帰宅していませんでした。でも連絡して学校に来ていただき、教頭先生と3人で面談し今までの経緯をお話しました。

お父さんは、みちこさんが学校を欠席することが多いことも知りませんでした。





学校からの話を聞いて、
お父さんはどうされましたか。

大変驚かれましたが、何よりも
みちこさんのことをとても心配されました。

「帰宅して、家族でよく話し合います」
と言って帰られました。





その後、みちこさんはどうなりましたか。

お父さんは、お母さんが一人で子育てをしている苦労を理解し、できるだけ連絡を取ったり、帰宅する回数を増やしたりして子育てに協力することにしたそうです。

その後は、みちこさんも毎日登校し、時々弟の様子を話してくれました。





なみちゃんの一言

- 子育ては大変なことです。子どもにとって一番いい方法を、保護者と一緒に学校も考えていけたらいいですね。
- 現在は、学校がSSWに協力を要請できることも増えました。さまざまな機関と協力して、家庭を支援することができます。

※SSW・・・スクールソーシャルワーカー

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)